

# 男女共同参画都市宣言の八王子市 健康長寿のまち佐久市 校庭の芝生化をすすめる小諸市を視察一市議会厚生文教委員会

## 休日急病診療所の診療時間が 午後6時まで1時間延長されます

インフルエンザの流行が拡大する中、休日急病診療所で診察を受ける患者が通常の3倍に急増しています。

そこで江南市は、尾北医師会の協力を得て診療時間を1時間延長することになりました。

在宅当番医の診療は30分短縮し、午後6時30分から8時となります。

休日急病診療所の診察時間は・・・

午前9時～12時 午後2時～午後6時

受付はそれぞれ30分前となります。

詳しいことは、

平日は保健センター 56-4111 休日は 56-4112

当日の在宅当番医は、その日の新聞にも掲載。

10月27日から29日まで厚生文教委員会の視察を行いました。初日は、東京都八王子市。人口56万人の都市ですが、高尾山に象徴される山に囲まれた自然豊かな町です。

男女共同参画社会基本法が制定された1999年に、八王子市では、男女共同参画プランとともに、男女共同参画都市宣言を12月議会で行い、男女共同参画行政を推進しています。

今年3月には、第2次男女共同参画プランを策定し、3つの重点目標を定めて、市民活動推進部男女共同参画課を中心に事業が展開されています。

とくに男女共同参画センターにおいて、相談専用電話が開設され、DV専門の相談（DVホットライン）や保健、法律相談、カウンセリングなどが専門の相談員や弁護士、カウンセラーなどによって精力的に行われています。

職員体制も、センターの管理運営も含め、女性の課長さんをはじめ7名の体制で、ほかに嘱託の相談員が4名と充実しています。

審議会等への女性の参加は2007年度で36%と江南市の倍近い参加率ですが、目標は50%なので「まだまだです」とのことでした。

2日目は、健康長寿の町佐久市を訪問。

佐久市は、市立国保浅間病院と旧臼田町にある厚生連佐久総合病院の先進的な地域連携医療によって、健康長寿のまちとして知られ、医療費も全国平均より低く、一度訪れたいと思っていたまちです。

しかし、病院の先進的な取り組みだけではない、行政のしつかりとした理念にもとづく長期にわたる取り組みと、まちの風土も大きく影響していることがわかりました。

かつて昭和36年当時は、脳卒中による死亡率が全国1高く、これを克服する取り組みが医療（浅間病院）と保健指導（行政）の連携によって、減塩運動や食生活改善運動などが展開され、昭和49年には全国平均を下回るまでに成果を上げてきたことです。高齢者支援のメニューは96項目に

3日目は、歴史も豊かな小諸市。学校の芝生化について、その目的と維持管理について、視察しました。

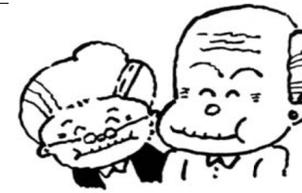
子供たちが転ぶことを怖がらずにのびのびと動き回ることができるように、また地球温暖化対策などの環境教育にも役立つことを目的に、全小学校の芝生化を目指し、まずモデル校として水明小学校で今年実施したとのこと。

児童数は全校380人。4800㎡の校庭を芝生化しました。6月28日に約300人の親子などボランティアが参加し、ティフンという洋芝のポット苗を50センチ間隔で植え付け。約2か月の養生期間を経て、8月18日から使用。9月の運動会も芝生のもで行いました。

維持管理にかなりの手間ひまがかかります。

校庭全域にスプリンクラーを埋設し、毎日散水が必要です。施肥は約2週間に1回化成肥料をまきます。ティフン芝の保護のために、秋には冬芝の種を撒きます。私たちが訪問した時はすでに冬芝の芽が出て青々としていて、ちょうど休み時間だったのが、子供たちがボール遊びなどに興じていました。子どもたちの評判は上々とのことでした。

高齢者の医療費（一人当たり）			
全国（17年度）	82万円		
佐久市（18年度）	69万円		
江南市（18年度）	72万円		
100歳以上の高齢者（19年9月厚労省）			
全国	32295人	人口10万人当たり	25人
佐久市		人口101000人	56人
江南市（21年4月）		人口102128人	14人
平均寿命			
全国（17年国勢調査）	男性 78.8歳	女性 85.6歳	
佐久市（17年）	男性 79.9歳	女性 86.1歳	
江南市（"）	男性 78.9歳	女性 85.1歳	



芝生化・全体の事業費は（小諸市）			
工事費（散水設備等）	876万円	肥料代	21万円
委託料（技術指導料）	92万円	原材料（夏芝・冬芝）	73万円
備品（芝刈機・倉庫他）	148万円	その他	19万円
<b>計1229万円 約60%は補助金を活用。</b>			
維持管理費 約40万円（1㎡当76.8円）			
散水用の水は湧水を引いてきているので0円。			

及んでいます。このメニューの中には江南市でも取り組んでいるものもたくさん含まれていますが、大きく違うのは、保健師さんの数と圧倒的な住民参加の内容です。

- ・保健師30名以上 江南市は15名。（人口はほぼ同じ）
- ・保健補導員制度に、21年は711名参加（補導員経験者数24000人余）
- ・お達者応援団育成塾（地域のサロン活動などリーダー養成）
- ・はつらつ音楽サロンやはつらつ水中ウォークなども、地域の温水プールや音楽教室など どの講師やトレーナーなどの協力で運営されている。

また日頃はピンピン元気で長生きし、コロリと大往生できるように「ピンピンコロリ」を合言葉に健康長寿のまちづくりに取り組んでいる佐久市。これを町の活性化にも生かそうと平成15年佐久市野沢の成田山薬師寺の山門前に、その名も「びんころ長寿地蔵」が出現し、第2土曜日には山門市がたち多くの人々でにぎわっているとのことでした。